

「ファニーたい焼きトム19ミート
ソース」

【オープニング】

（都内・商店街の入り口）

（賑わう商店街の中、一人の男がド派手なアメリカ国旗柄のハチマキを締め、巨大なスピーカーをセットする。その男こそ「たい焼きトム」の店主・トムである！）

トム（拡声器を手に） 「レディース・ア
ンド・ジェントルメン！ポイズ・ア
ンド・
ガールズ！たい焼きの常識をぶっ壊す時
が来たッ！！」

（商店街の人々が「また始まった…」と
いう表情でチラ見する）

トム（続けて） 「あなたのたい焼き、甘
いだけで満足ですか！？ そろそろ、新た
な革命が必要じゃないですかッ！！」

（数名が足を止めるが、まだ半信半疑な様子）

魚住（遠くから駆け寄る）「トムさん！！

また勝手にスピーカー使って宣伝してるんですか！？ 商店街のルール守ってくださいって言ったじゃないですか！」

トム（無視して続行）「これが…その革命だ！！その名も…ミートソースたい焼き！！！」

（大きく掲げられるたい焼き。その尻尾の先から、トロリと赤いミートソースが垂れている）

通行人▶「…えっ、今なんて？」

通行人♫「ミートソースたい焼きって言った…？」

通行人○（苦笑）「いやいや、たい焼きってそういう食べ物じゃないでしょ」

（魚住が頭を抱える）

魚住「そういう反応になりますよねえ！」

（しかし、トムは自信満々に微笑む）

トム「皆さん、わかってない！甘いたい焼きはもう古い！これからは…ご飯のおかずにもなるたい焼きの時代だ！！！」

（商店街の空気がザワつき始める）

通行人〇（興味を持ち始める）「えっ、でもミートソースってことは…パスタのアレ？」

トム（満面の笑み）「YES…！！コク深いミートソースに、たっぷりのチーズを加えて…そして、このサクサクのたい焼き生地で包み込む！まさに、たい焼きの進化形ッ！！」

魚住（小声で）「それ、もはやイタリア料理じゃ…？」

（トム、聞こえていないフリをする）

（やがて、ひとりの勇気ある挑戦者が現れる…）

勇敢なサラリーマン「…ちょっと気になるから、試してみてもいいですか？」

（その一言を聞いた瞬間、トムの目が輝く！）

トム「OH！ファーストチャレンジャー、現る！！！」

（トムが派手な音楽をかけながら、サラリーマンにたい焼きを手渡す。果たして、その味の感想は…！？）

【第一試食】

（商店街・特設試食スペース）

（サラリーマンが、周囲の注目を浴びながらたい焼きを持つ。魚住はハラハラしながら見守る）

サラリーマン（慎重に）「えーと…では、いただきます。」

（たい焼きを一口かじると、チーズとミートソースがじゅわっと溢れ出す）

サラリーマン（目を見開く）「えっ！？
…これ…ウマイ！？」

（周囲の通行人がざわめく）

通行人▶「マジ！？」「うそだろ？」「意外といけるのか？」

魚住（驚き）「ほんとに！？」

サラリーマン「外はカリッとしてるのに、中のミートソースがアツアツで…チーズ

がトロ〜リ。これ、普通にご飯代わりになる！」

トム（満面の笑み）「HAHAHA.. やっばりな！！これが、新世代のたい焼きだ！！」

（サラリーマンの食レポで、興味を持つ人がどんどん集まり始める）

通行人B「…おい、俺も食べてみたい」

通行人C「じゃあ私も！」

（列ができ始める。商店街のざわめきが次第に熱狂に変わっていく…！）

SNS 投稿 A「パスタよりも手軽に食べられる！」

SNS 投稿 B「中身ぎっしり詰め込まれて、生地がいい具合に沁みこんでる」

SNS 投稿 C「トマトと肉のパラダイス！」

（拡散され、一気に話題になる！商店街の外からも客が押し寄せ、展開へ…！）

【パニック！行列の嵐】

（翌日、開店前から店の前には長蛇の列ができています）

魚住（目を丸くする）「えっ！？ なんですかこの行列！？」

トム（胸を張る）「HAHAHA！バズった結果だな！ミートソースたい焼き、最高の滑り出しだ！」

（店のシャッターを開けるや否や、客が一気になだれ込む）

客A「ミートソースたい焼きうつ！」客

B「10個ください！」客C「売り切れる前に早く！」

（魚住、汗をかきながら対応）

魚住「ちょ、ちょっと待ってください！
一人ずつ順番に！」

（トムは楽しげにたい焼きを焼きまくる
が、果たしてこの勢いはどこまで続くの
か！？）

【競合店の逆襲】

（ある日、商店街の一角に新たな看板が
立つ）

看板：「アンチ・ミートソースたい焼き専
門店」

（魚住、目を丸くする）

魚住「ええっ！？ こんな店、昨日までな
かったのに！！」

トム（興味津々）「ふむふむ…？ 競争が
始まるってわけか…！！ HAHHAHHA！ 面白
くなってきたじゃないか！！」

（その店のメニューには、「ミートソースゼロ！超サクサク生地」「和風・ミートなしたい焼き」の文字が躍る）

（同時に、SNSでは「アンチ・ミートソース派 VS ミートソース支持派」の論争が勃発！）

SNS 投稿 D「たい焼きにミートソースは邪道！」

SNS 投稿 E「いや、むしろ革命的だろ！」

【クライマックス：伝説のシェフの裁き】

（たい焼きトムの成功を妬んだ競合店

「アンチ・ミートソースたい焼き」が猛プッシュユ！ついに商店街のたい焼き戦争が勃発！）

（そこへ突如、世界的に有名な伝説のシェフが現れる）

シェフ（神々しいオーラ）「この噂のミートソースたい焼き…ぜひとも、私に食べさせてもらおう」

（緊張が走る。トムと魚住はゴクリと息をのむ）

（シェフ、たい焼きを一口かじる…時間が止まるような静寂）

シェフ（目を閉じて味わい）「……これは……実に、素晴らしい……！」

（周囲、驚愕！競合店のオーナーは崩れ落ちる）

シェフ「このたい焼きには、魂がある…ミートソースとたい焼きの融合！これはまさに、新たな食の革命だ！！」

（シェフがトムの味方につき、たい焼きトムの大勝利！！商店街の伝説となる！）

トム（大歓声の中）「HAHAHAHA！フ
アニーは世界を救う！！」

魚住（苦笑）「もう、ホントに…この店、
毎回大騒ぎですね…」

（商店街に笑顔が広がる中、物語は幕を
閉じる――）

シーン：商店街の通り

商店街の雰囲気に戻り、賑わいを見せる。
トムと魚住が店の前で並んで立っている。
周囲は平穏で、活気がある。

シェフ（年齢不詳、やや寂しげな顔つき
で、トムに向かって一言）シェフ：「料
理は人を幸せにするモノだということを忘
れてないかい？」

シェフが一步踏み出し、店の前を通り過
ぎようとする。トムと魚住は、シェフの

言葉に一瞬驚くが、その後、納得したように見守る。

トム（少し考え込みながら、シェフに手を振る）トム：「シェフ…！ありがとうございます！」

魚住（困惑しながらも、シェフに頭を下げる）魚住：「ありがとうございます！
た…！」

シェフはそのまま無言で歩き去り、商店街の風景が続く。お客さんたちが歩きながら談笑し、たい焼き屋にもまた新たな客が入る。

突然、シェフの言葉が心に響いたのか、トムが何かに気づいたように顔を上げる。

トム（急に大声で）トム：「わかったぞ！
これが本当に目指してたモノだ！」

魚住が少し驚きながらも、トムを見つめる。

魚住（少し疑いながらも）魚住：「何がですか？」

トム（笑顔で）トム：「料理って、ただ美味しいだけじゃダメなんだ！みんなが笑顔になって、幸せな気分になることが大事なんだ！」

魚住が笑いながら、トムの肩をポンと叩く。

魚住（にっこりと）魚住：「それ、今さら気づいたんですか？」

トム（照れくさそうに）トム：「まあ、今さらかもな。でも、これからも頑張るぞ！」

トムと魚住は、商店街の他の店主たちと
挨拶を交わしながら、たい焼き屋に戻っ
ていく。

カメラが空を映し、平穏な日常が続いて
いく様子が描かれる。

——END——